

浜の活力再生プラン

(第2期)

1 地域水産業再生委員会

組織名	横須賀市佐島地区地域水産業再生委員会
代表者名	会長 福本憲治（湘南漁業協同組合 代表理事組合長）

委員会の 構成員	・湘南漁業協同組合佐島支所 ・横須賀市 ・佐島漁業株式会社 ・あしな漁業株式会社
オブザーバー	神奈川県横須賀三浦地域県政総合センター

対象となる地 域の範囲及び 漁業の種類	横須賀市佐島周辺地域（横須賀市佐島、芦名、秋谷、佐島の丘、湘南国際村、長坂、太田和、子安、荻野の区域） ・漁業の種類：定置網（3経営体） ：刺し網（47名） ：一本釣り（82名） ：しらす船びき網（5名） ：小型まき網（2経営体） ：はえ縄（21名） ：潜水（23名） ：養殖若布（9名） ：採介藻（74名） ：蛸壺・籠（60名） ：ひき網（3名） ・全体漁業者数：正組合員127名 准組合員118名（複数の漁業を営む兼業者がいるため、組合員数と漁業者数の合計は一致しない）
---------------------------	---

2 地域の現状

(1) 地域の水産業を取り巻く現状等

【地域特性】

横須賀市は、神奈川県南東部の三浦半島に位置し、市域の東側は東京湾、西側は相模湾に面した海に囲まれている。さらに、暖流黒潮が岸を洗う暖冬涼夏の恵まれた気候、緑豊かな自然環境の中、本市の水産業は都市近郊型漁業として発展してきた。

【漁業を取り巻く状況】

主な漁業は定置網、まき網で、そのほか、たこつば・籠、かつお一本釣り、しらす船びき網、裸もぐり等がある。

令和 2 年度に江の島片瀬漁業協同組合（以下、「江の島片瀬漁協」という。）と共同で神奈川県で初となる広域浜プランを策定し承認を受け、江の島片瀬漁協の定置網の漁獲物を、湘南漁業協同組合佐島地方卸売市場（旧横須賀市大楠漁業協同組合地方卸売市場。以下、「佐島市場」という。）で共同出荷している。「横須賀再興プラン《平成 30 年度（2018 年度）～平成 33 年度（2021 年度）》」では、「佐島漁港本港地区の用地造成を含めた 6 次産業化などの検討」が行われている。

令和 2 年にカツオ一本釣り漁業の漁業者が協力して、あしな漁業株式会社を立ち上げ、「佐島日戻りカツオ」（仮称）のブランド化に向けて活動を始めている。

(2) その他の関連する現状等

神奈川県令和 2 年度入れ込み観光客調査によれば、コロナの影響を受けたため、三浦半島地域の延観光客数は 968 万人で、前年に比べ 682 万人の減少（前年比▲41.3%）となった。

横須賀市では、「三笠公園」、「ヴェルニー公園」等の観光施設における来訪者の大幅減や、「よこすか開国祭」等のイベント中止などにより、400 万人減少した。

コロナ禍の終息が必要であるが、横須賀市では西地区海岸周辺における用途地域等の見直しが行われたことで、ホテルの立地が可能となるため、観光客は回復する見込みである。

令和 6 年 1 月に大楠漁協、葉山町漁協、藤沢市漁協、鎌倉漁協が合併し、湘南漁協が発足した。

3 活性化の方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

ア 佐島漁港本港地区の 6 次産業化への対応

6 次産業化へ対応するため、資源管理に配慮しつつ佐島市場での水揚げの増加を図る。

主にカツオ一本釣り漁業者が協力し、高品質な日戻りカツオ（「佐島日戻りカツオ」（仮称）12～14 時までに漁獲されたカツオを 16 時までに水揚する鮮度の高いカツオ。）を安定出荷することにより、魚価の向上を図る。カツオの餌として「活イワシ」のコスト削減のため、生け簀と釣り堀を併設したハイブリッド型活魚蓄養施設を漁港内に設ける。

主に定置網で漁獲される未利用魚を水族館等に出荷することにより販売ルートを拡大するとともに、将来的に生け簀、冷凍餌などの開発を行う。

併せて、直売所や加工施設等の漁業者所得向上につながる施設についても、将来的に設置できるよう用地造成も視野に入れて検討を進める。

イ 磯焼け対策、種苗放流等による資源造成

県が策定した「第 7 次栽培漁業基本計画」に基づき、ニーズが高く、放流効果も高いマダイ、ヒラメ、トラフグ、アワビ類、サザエ等の種苗を放流することで、資源の維持増大

と水揚量の向上を図る。

神奈川県立海洋科学高校（以下、「海洋高校」という。）の支援を得て、新たな磯焼け対策を実施する。

「貝藻くん」などの小型人工魚礁を設置し、藻場の回復を図る。

広域浜プランの施策としてまた、湘南の新たな名産として期待されているハマグリの稚貝を放流し、天然ハマグリの再生を図る。

タコの漁場環境の整備（魚礁「JF シェルナース」『貝藻くん』と蛸壺を組み合わせ設置することによりタコの産卵着床を促す。）により、「佐島地だこ」の安定出荷を目指す。

ウ 地方卸売市場の機能強化及び漁村交流人口の増加・地域活性化

佐島市場について、江の島片瀬漁協の定置網漁獲物の受入開始に伴う集出荷機能強化、衛生・鮮度管理の高度化を図るとともに、飲食店等を整備することにより漁村交流人口を増やし、地域活性化を図る。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

神奈川県漁業調整規則、定置漁業資源管理計画、共第11号第1種共同漁業権行使規則、第2種及び第3種漁業権行使規則に基づき、適切な採捕制限を徹底し水産資源の管理を行う。

(4) 具体的な取組内容（年度ごとに数値目標とともに記載）

1年目（令和3年度） 数値目標：基準年から1.3%増

漁業収入向上のための取組	ア 佐島漁港本港地区の6次産業化への対応 主にカツオー本釣り漁業者が協力し、都内のレストランと提携し、高品質な日戻りカツオの販売ルートを開拓する。 あしな漁業株式会社は、19トン型カツオー本釣り漁船建造を検討する。 カツオー本釣り漁業者等は、「佐島日戻りカツオ」（仮称）の基準を検討する。 カツオー本釣り漁業者等は、カツオの餌とする「活イワシ」のコスト削減のため、生け簀と釣り堀を併設したハイブリッド型活魚蓄養施設の計画を立てる。 大楠漁協は、主に水族館と、未利用魚の利用（餌や展示用として）について検討する。 イ 磯焼け対策、種苗放流等による資源造成 大楠漁協は、海洋高校の支援を得て、二価鉄イオンを利用した新たな磯焼け対策の研究を開始する。 大楠漁協は、放流効果が高いマダイ、ヒラメ、トラフグ、アワビ類、サザエ等の種苗を放流する。 大楠漁協は、「貝藻くん」などの小型人工魚礁の性能を調査する。 大楠漁協は、ハマグリの稚貝放流場所を調査するとともに、かご型養殖についても検討する。 大楠漁協は、「佐島地だこ」の安定出荷に向け、「貝藻くん」などの小型人工魚礁とタコつぼの組み合わせなどを検討する。 ウ 地方卸売市場の機能強化及び漁村交流人口の増加・地域活性化 大楠漁協は、大楠漁協地方卸売市場について、市場一階部分の防鳥・漏滴対策、荷捌き区画の拡大、市場二階（低利用倉庫）の多目的ホール
--------------	--

	(組合員出資の飲食施設等として利用) への改修を計画する。 大楠漁協は、衛生・鮮度管理を目的として「次世代活水器 ディレカ」の導入を検討する。
漁業コスト削減のための取組	ア カツオー本釣り漁船の共同運航 複数の漁師が1隻(あしな漁業株式会社の取得船)に相乗りして共同で操業することで、氷、燃料費等の削減を検討する。 イ 定置船のコスト削減 全漁業者は、船底清掃や減速航行の徹底により、燃油使用量を基準年から5%削減する。
活用する支援措置等	水産業強化支援事業(浜の活力再生・成長促進交付金) 水産多面的機能発揮対策事業 水産業成長産業化沿岸地域創出事業

2年目(令和4年度) 数値目標: 基準年から4.9%増

漁業収入向上のための取組	ア 佐島漁港本港地区の6次産業化への対応 主にカツオー本釣り漁業者が協力し、あしな漁業株式会社の漁船を用いた共同操業を開始する。 カツオー本釣り漁業者等は、「佐島日戻りカツオ」(仮称)の基準を定める。 カツオー本釣り漁業者等は、ハイブリッド型活魚蓄養施設の設置区域を検討する。 大楠漁協は、主に水族館に対して、未利用魚の販売を開始する。 イ 磯焼け対策、種苗放流等による資源造成 大楠漁協は、海洋高校の支援を得て、二価鉄イオンを利用した新たな磯焼け対策の実証試験を開始する。 大楠漁協は、前年に引き続き、放流効果が高いマダイ、ヒラメ、トラフグ、アワビ類、サザエ等の種苗を放流する。 大楠漁協は、「貝藻くん」などの小型人工魚礁の性能を検証する。 大楠漁協は、ハマグリの子貝放流場所を決定するとともに、かご型養殖を開始する。 大楠漁協は、「佐島地だこ」の安定出荷に向け、「貝藻くん」などの小型人工魚礁とタコつぼの組み合わせを導入する。 ウ 地方卸売市場の機能強化及び漁村交流人口の増加・地域活性化 ・大楠漁協は、前年に立案した計画の実施に向け、横須賀市、神奈川県と所定の手続き等について協議する。 ・大楠漁協は、「次世代活水器 ディレカ」の導入準備を進める。
漁業コスト削減のための取組	ア カツオー本釣り漁船の共同運航 複数の漁師が1隻に相乗りすることで、氷、燃料費等の削減を図る。 イ 定置船のコスト削減 全漁業者は、船底清掃や減速航行の徹底により、燃油使用量を基準年から5%削減する。
活用する支援措置等	水産業強化支援事業(浜の活力再生・成長促進交付金) 水産多面的機能発揮対策事業 水産業成長産業化沿岸地域創出事業

3 年目（令和 5 年度） 数値目標：基準年から 8. 1 %増

漁業収入向上のための取組	ア 佐島漁港本港地区の 6 次産業化への対応 カツオー一本釣り漁業者等は、「佐島日戻りカツオ」（仮称）の出荷を開始する。 カツオー一本釣り漁業者等は、漁港内に設けたハイブリッド型活魚蓄養施設で育成した「餌イワシ」の組合員向け販売を開始する。また、釣り堀としての収益性を評価する。 湘南漁協は、主に水族館に対して、未利用魚の販売を拡大する。 カツオー一本釣り漁業者等は、カツオ漁船等が消費する餌イワシの蓄養を検討する。 イ 磯焼け対策、種苗放流等による資源造成 湘南漁協は、二価鉄イオンを利用した新たな磯焼け対策の実証試験の効果を確認しつつ試験を継続する。 湘南漁協は、前年に引き続き、放流効果が高いマダイ、ヒラメ、トラフグ、アワビ類、サザエ等の種苗を放流する。 湘南漁協は、「貝藻くん」などの小型人工魚礁の性能を検証する。 湘南漁協は、ハマグリの子貝放流を開始するとともに、かご型養殖を開始する。 湘南漁協は、「佐島地だこ」の安定出荷に向け、「貝藻くん」などの小型人工魚礁とタコつぼの組み合わせを拡大する。 ウ 地方卸売市場の機能強化及び漁村交流人口の増加・地域活性化 湘南漁協は、計画に基づき、防鳥・漏滴対策、荷捌き区画の拡大、市場二階の多目的ホールへの改修等の整備を実施する。 湘南漁協は、「次世代活水器 ディレカ」を導入し、衛生・鮮度管理の高度化を図る。
漁業コスト削減のための取組	ア カツオー一本釣り漁船の共同運航 複数の漁師が 1 隻に相乗りすることで、氷、燃料費等の削減を図る。 イ 定置船のコスト削減 全漁業者は、船底清掃や減速航行の徹底により、燃油使用量を基準年から 5 %削減する。
活用する支援措置等	水産業強化支援事業（浜の活力再生・成長促進交付金） 水産多面的機能発揮対策事業 水産業成長産業化沿岸地域創出事業

4 年目（令和 6 年度） 数値目標：基準年から 11. 6 %増

漁業収入向上のための取組	ア 佐島漁港本港地区の 6 次産業化への対応 あしな漁業株式会社は、新たに導入する 19 トン型カツオー一本釣り漁船の仕様を決定する。 カツオー一本釣り漁業者等は、前年に開始した「餌イワシ」の販売について、販売先を湘南漁協組合員以外のカツオ船等に拡大する。 カツオー一本釣り漁業者等は、飲食店での提供やメディアの活用により「佐島日戻りカツオ」（仮称）のブランド力向上を図る。
---------------------	--

	湘南漁協は、前年に引き続き、主に水族館に対して、未利用魚の販売を拡大する。 カツオ一本釣り漁業者等は、カツオ漁船等が消費する餌イワシの蓄養を開始する。 イ 磯焼け対策、種苗放流等による資源造成 湘南漁協は、実証試験の結果を踏まえ、二価鉄イオンを利用した新たな磯焼け対策を本格的に実施する。 湘南漁協は、前年に引き続き、放流効果が高いマダイ、ヒラメ、トラフグ、アワビ類、サザエ等の種苗を放流する。 湘南漁協は、検証を終えた「貝藻くん」などの小型人工魚礁を増設する。 湘南漁協は、前年に引き続き、ハマグリの子貝放流を実施するとともに、かご型養殖を継続する。 湘南漁協は、前年に引き続き、「佐島地だこ」の安定出荷に向け、「貝藻くん」などの小型人工魚礁とタコつぼの組み合わせを拡大する。 ウ 地方卸売市場の機能強化及び漁村交流人口の増加・地域活性化 湘南漁協は、機能強化を図った市場の運用、前年に導入した「次世代活水器 ディレカ」の活用により魚価の向上を図る。 湘南漁協は、コロナ禍の終息を確認した後、市場二階に整備した多目的ホールを組合員出資の飲食施設等に活用することで、漁村交流人口の増加、地域活性化を図る。
漁業コスト削減のための取組	ア カツオ一本釣り漁船の共同運航 複数の漁師が1隻に相乗りすることで、氷、燃料費等の削減を図る。 イ 定置船のコスト削減 全漁業者は、船底清掃や減速航行の徹底により、燃油使用量を基準年から5%削減する。
活用する支援措置等	水産業強化支援事業（浜の活力再生・成長促進交付金） 水産多面的機能発揮対策事業 水産業成長産業化沿岸地域創出事業

5年目（令和7年度） 数値目標：基準年から15.3%増

漁業収入向上のための取組	ア 佐島漁港本港地区の6次産業化への対応 あしな漁業株式会社は、新たに19トン型カツオ一本釣り漁船の建造を開始する。 カツオ一本釣り漁業者等は、前年に引き続き、湘南漁協の組合員以外のカツオ船への「餌イワシ」の販売を継続する。 カツオ一本釣り漁業者等は、前年に引き続き、「佐島日戻りカツオ」（仮称）のブランド力向上を図る。 湘南漁協は、前年に引き続き、主に水族館に対して、未利用魚の販売を拡大する。 カツオ一本釣り漁業者等は、カツオ漁船等が消費する餌イワシの蓄養の他、冷凍餌の開発を検討する。 イ 磯焼け対策、種苗放流等による資源造成 湘南漁協は、二価鉄イオンを利用した新たな磯焼け対策を継続する。
--------------	--

	湘南漁協は、前年に引き続き、放流効果が高いマダイ、ヒラメ、トラフグ、アワビ類、サザエ等の種苗を放流する。 湘南漁協は、検証を終えた「貝藻くん」などの小型人工魚礁を増設する。 湘南漁協は、前年に引き続き、ハマグリの子貝放流を開始するとともに、かご型養殖を継続する。 湘南漁協は、前年に引き続き、「佐島地だこ」の安定出荷に向け、「貝藻くん」などの小型人工魚礁とタコつぼの組み合わせを拡大する。 ウ 地方卸売市場の機能強化及び漁村交流人口の増加・地域活性化 湘南漁協は、引き続き機能強化を図った市場の運用、「次世代活水器ディレカ」の活用により魚価の向上を図る。 湘南漁協は、市場二階に整備した多目的ホール（組合員出資の飲食施設等に活用）の集客能力を強化することで、さらなる漁村交流人口の増加、地域活性化を図る。
漁業コスト削減のための取組	ア カツオー一本釣り漁船の共同運航 複数の漁師が1隻に相乗りすることで、氷、燃料費等の削減を図る。 イ 定置船のコスト削減 全漁業者は、船底清掃や減速航行の徹底により、燃油使用量を基準年から5%削減する。
活用する支援措置等	水産業強化支援事業（浜の活力再生・成長促進交付金） 水産多面的機能発揮対策事業 水産業成長産業化沿岸地域創出事業 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業

(5) 関係機関との連携

海洋高校の支援を得て、二価鉄イオンを利用した新たな磯焼け対策を実施する。

4 目標

(1) 数値目標

漁業所得の向上 10%以上	基 準 年	平成 27～令和元年度 5 中 3 平均（漁業者一人あたり） ： 円／人
	目 標 年	令和 7 年度（漁業者一人あたり） ： 円／人

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

カツオの平均単価の向上	基準年	平成 27～令和元年度 5 中 3 平均：477 円/kg
	目標年	令和 7 年度：681 円/kg

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

「佐島日戻りカツオ（仮称）」のブランド化により、低迷しているカツオの単価を平成 28 年の水準(681 円/kg)まで回復させる。この価格は、令和元年の豊洲市場の平均卸売価格(687 円/kg)とほぼ同じであり、目標として現実的な額である。
--

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
水産多面的機能発揮対策事業	(1)藻場保全活動 種苗の生産、種苗の投入、母藻の設置、食害生物（ウニ類、魚類）の除去 (2)海底清掃 ダイバーによる海底ゴミの清掃
水産業成長産業化沿岸地域創出事業	中古漁船、漁具等の購入、機関等の修理
水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業	19 トン型カツオ一本釣り漁船を導入(5 年目申請)